天城遺産

Histrical / Natural heritage in Amagi town

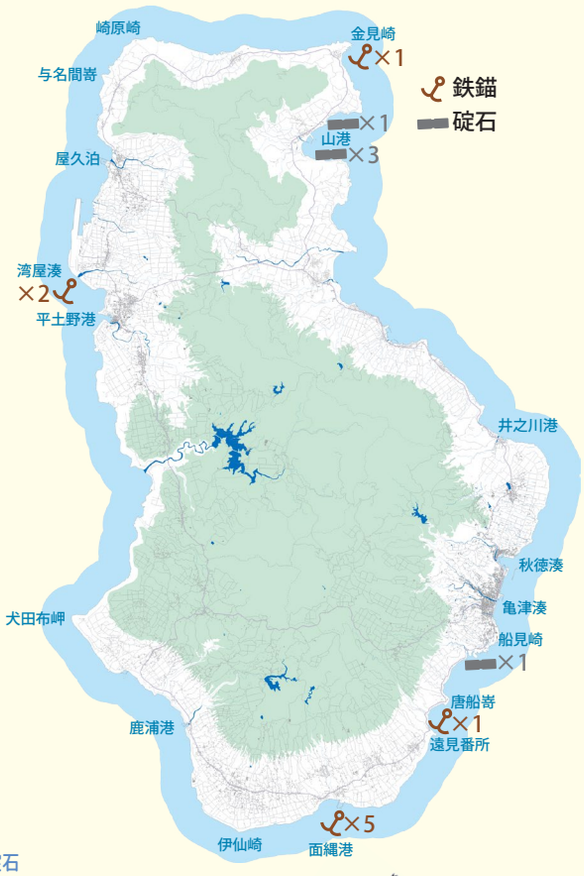
シリーズ天城遺産　その２８

島の海にお宝が?!

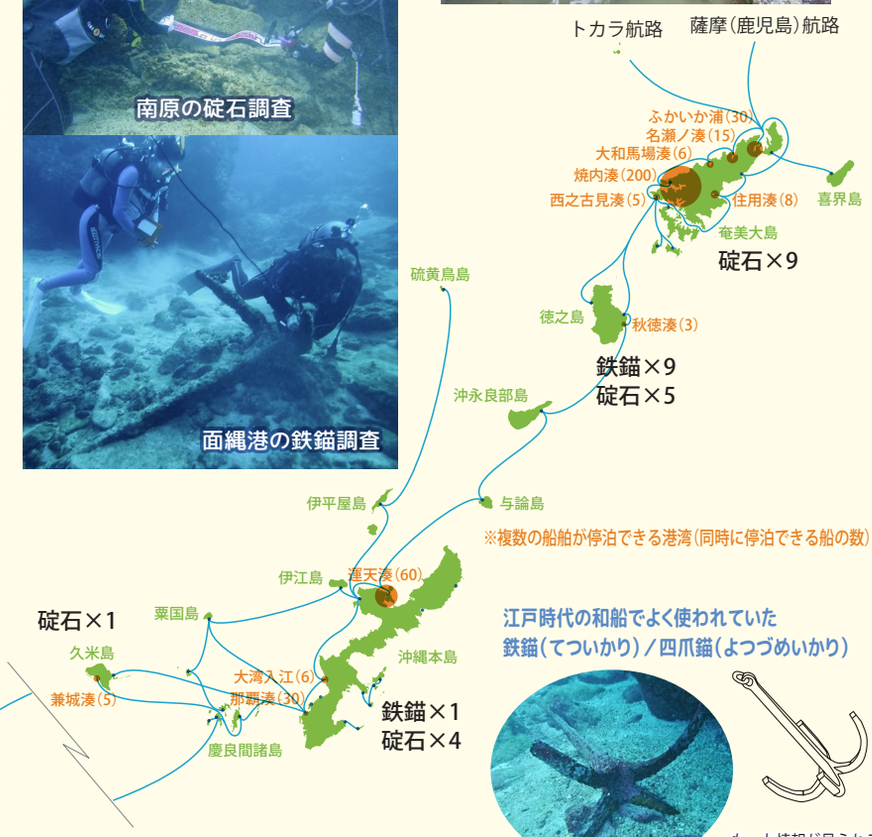
南西諸島の水中遺跡

水中遺跡は、縄文時代から太平洋戦争に至るまで様々な時代の遺物を含みますが、奄美群島では産品の輸出や交易、水や食料の補給などに来た船にまつわる遺物が中心となっています。江戸時代、奄美群島は道之島と呼ばれていたように、琉球をはじめ中国や朝鮮、ヨーロッパとの交易の要衝（ようしょう）でした。**徳之島三町では近年、周辺海域の調査を進めていますが、なにしろ11～14世紀（平安～鎌倉時代）まで島内で生産されたカムィヤキの壺や碗は、長崎県から沖縄県の波照間島まで広く流通していたのに、どこから運び出されたのか謎なのです！** 調査では、船が停泊していた手がかりとなる鉄のイカリが9本、もっと昔のイカリの**おもり**だった碇石（いかりいし）が5本、見つかりました。特に港に適した奄美大島の龍郷町や宇検村では、陸上に引き上げられた2mを超える碇石がいくつも見つかっていますが、徳之島の海底では1m前後の碇石が多いのは、サンゴ礁が多く浅い海岸に接岸するには大型の船でなく、より小さな船が適していたのかもしれません。宇検村にある焼内（やけうち）湾の倉木崎海底遺跡では、12世紀後半の中国産陶磁器が大量に発見されており、当時から良港として知られていたことを物語っています。

徳之島の水中遺跡



長崎県 松浦市教育委員会提供・鷹島海底遺跡の木碇と碇石



江戸時代の和船でよく使われていた
鉄錨（てついかり）／四爪錨（よつづめいかり）

江戸時代初期の主な港湾と航路

※正保国絵図と元禄国絵図を参考に作成しています

もっと情報が見られる
電子版はこちら

※ 庭や近所に細長い岩があれば、碇石かもしれないので、ユイの館まで情報提供をお願いします！

協力：伊仙町教育委員会、徳之島町教育委員会　編集：天城町教育委員会 具志堅亮、山田文彦